

## 【バスケットボール 3×3】



### ※競技概要

試合は1チーム3人で、コートサイズは通常のバスケットボールの半分と比較的少人数で気軽にできるスポーツである。それと同時に、1試合10分間の21点ノックアウトで行われショットクロックも12秒と回転の速い攻防で試合展開が非常にスピーディーである。

### ※歴史

- 2007年 コースオリンピック(2010)での種目入りを承認される
- 2010年 コースオリンピックにて初めて国際舞台の陽の目を浴びる、FIBA国際会議にてオリンピック正式種目入りを目指すことが表明される
- 2011年 U-18世界選手権を初開催
- 2012年 FIBA 3x3 World Champion Ship ※現FIBA 3x3 World Cup(国別世界選手権)、FIBA 3x3 World Tour(チーム別世界ツアー)初開催 世界個人ランキングポイント制度 3x3Planet の導入
- 2013年 日本において3x3.EXEブランド誕生
- 2013年 3x3 TOURNAMENT.EXEの開催を開始
- 2013年 「FIBA 3x3 World Tour Tokyo Masters」を3x3.EXEが誘致、東京お台場で開催
- 2014年 トップリーグ3x3 PREMIER.EXEを創立、7チームが所属。GAME.EXEの誕生
- 2014年 チーム別世界ツアー最終戦「FIBA 3x3 World Tour Sendai Final」を3x3.EXEが誘致、ゼビオアリーナ仙台で開催。
- 2015年 3x3 PREMIER.EXEの所属チーム数が8チームへ拡大。
- 2016年 国別世界選手権「第2回FIBA 3x3 U18 アジアバスケットボール選手権大会」U18女子日本代表優勝
- 2017年 3x3 PREMIER.EXEの所属チーム数が18チームの3カンファレンス制に。
- 2017年 「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters」の2回目を開催

## 【BMX フリースタイルパーク】



### ※競技概要

BMXとは、Bicycle Motocross(バイシクルモトクロス)の略であり、20インチ径または24インチホイールを持つ競技用自転車のことを指します。

パークとはBMXフリースタイルの1種目で、制限時間内に「バンク」と呼ばれる斜面や「カーブ」と呼ばれる緑石、スノーボードのハーフパイプ(HP)に似た「ランプ」などが設置された人工施設でジャンプや回転など技の難易度や独自性を競う。国際自転車連合(UCI)は昨年がSW杯を開催している。

### ※歴史

1970年代初頭にアメリカ西海岸を中心に始まったとされているBMX。子どもたちがオートバイのモトクロススターに憧れ、20インチの自転車を乗り回していたことが競技の原点とされています。5歳ほどの子どもから大人までが、同じコースを使用して楽しめる、世代を超えたコミュニケーションスポーツとしての側面も持っています。

日本をはじめ、全世界へと認知されたのは、1982年公開の映画「ET」の中で、少年たちがBMXに乗っていたことがきっかけのひとつです。2008年の北京オリンピックより正式種目となり、全世界で人気のサイクリングスポーツとなっています。競技種目も多彩です。レースから派生したフリースタイル競技も人気が高く、街なかの形状を模したパークで行われるストリートや、ハーフパイプで行うヴァート、平地でBMXを自在に操るフラットランドなどの種目があります。

日本では、1984年に全日本BMX連盟が発足しています。1989年にオーストラリアで開催された世界選手権に初めて3名の選手を派遣して以降、これまでに、年齢別クラスで4名の世界チャンピオンが誕生しています。トップカテゴリーにおいてもアジア選手権を制するなど、有望な選手を擁しています。またフリースタイル競技でも世界レベルの大会で優勝を飾る選手が多く存在しています。世界的に人気のBMXレースですが、国内での競技人口は現在、数千人程度と推計され、まだまだ伸びしろが期待されるスポーツです。

## 新種目体験！ムラリンピック

公益社団法人立川青年会議所

武蔵村山地域人間力創造会議

### タイムスケジュール(案)

10:00

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

会場レイアウト

## 【スポーツクライミング】



© 国際スポーツクライミング連盟

### ※競技概要

スポーツクライミングは3つの種目(リード・ボルダリング・スピード)の複合種目として実施されます。

リードはロープで安全が確保された選手が12メートルを超える高さの壁に設定されたコースを登り、制限時間内の到達高度を競う種目です。ボルダリングは高さ5メートル以下の壁に設定された複数のコースを、制限時間内にいくつ登れたかを競う種目です。各コースとも制限時間内であれば複数回トライできるため、少ない回数で登ることも重要となります。スピードは高さ15メートルの壁に設定された、予めホールドの配置が周知された同一条件のルートを駆け登るタイムを、コンマ数秒まで競い合うスプリント種目です。トップレベルの選手は15メートルの壁を男子は5秒合、女子は7秒合で駆け登ります。IOCに提案されたスポーツクライミングは、通常は単種目として行われるリード・ボルダリング・スピードをすべて行い、これら3種目の合計で順位がつけられるというものです。

### ※歴史

歴史を遡ると、1940年代後半から1980年にかけて、当時のソビエト連邦が自然の岩場でスピード種目の競技会を開催したのが始まりとされています。1985年、イタリアでは岩場でリードによる初めての競技会が開催され、フランスでは室内に設置されたクライミングウォールにおいて競技会が開催される等、徐々に欧州に競技会が活発化していきました。

1990年代になると、日本や米国等の欧州外でも国際大会が開催されるようになり、現在に至る世界選手権やワールドカップ、コース選手権等の各大会がスタートしました。当初はリードとスピードの2種目でしたが、1990年代後半にはボルダリングも導入され、現在の3種目(リード・ボルダリング・スピード)となりました。

黎明期より日本人の活躍は目覚ましく、これまでのワールドカップ個人年間ランキングでは、男子リードで1位を3回、女子ボルダリングで1位を4回、日本人選手が獲得しています。日本はチームとしても上位を保ち、ボルダリングでは2014、2015年と2年続けて国別ランキング1位となっています。

## 【スケートボード】



© 一般社団法人日本スケートボード協会

### ※競技概要

スケートボードは「パーク(PARK)」、「ストリート(STREET)」の2種に分けて競技を行います。「パーク」はお椀型のポールや、深皿型のプールなどを中心にR斜面(コースの中で湾曲した滑走面)を複雑に組み合わせたコンビプールと呼ばれるコースを使用します。「ストリート」は街中に存在する階段や縁石、斜面や手摺などを模したコースを使用します。両種目とも難易度、メイク率、ルーティーン、スピード、オリジナリティなどを総合的に評価する採点競技です。

### ※歴史

1940年代のカリフォルニアで木の板に鉄製の戸車を付けて滑った遊びが始まりとされています。1950年代に入りローラーダービー社から「ローラーサーフィン」という木製チップとゴム製のホイールが付いたおもちゃが売り出され、これが現在のスケートボードの原型とされています。

日本では、1970年代、各地の公園や駐車場では当然の光景のようにスケートボードで遊ぶ若者達の姿が見られる様になります。特に原宿にある代々木公園の歩行者天国はメッカとして全国にその名を轟かせました。スケートボードは一気に日本全国の若者達の必須アイテムに発展し、日本国内でも競技会から行われ、この時期を前後して日本各地に大小様々なスケートボード専用施設が誕生しました。

1990年代に入るとスケートボードは完全にストリートの時代を迎え、日本のファッション誌でもスケーター系などという単語が多く見られる様になります。コラボレーションも益々盛んになり、グラフィックや音楽などの様々な分野にも進出し、ついにストリート・カルチャーなどというカテゴリーまで作られ、流行に敏感な日本の若者達を刺激しました。昨今では、日本各地で公共スケートパークの開設が進み、親子で楽しめるスポーツとしての魅力も広く浸透しています。

## 【空手】



### ※競技概要

・組手競技

「個人組手」は、世界大会においては、体重別で女子は-50kg、-55kg、-61kg、-68kg、+68kgの5階級制となっており、男子は-60kg、-67kg、-75kg、-84kg、+84kgの5階級制となっています。

・形競技

競技において演武する形は、世界空手連盟(WKF)が定めた形(約75種類)の中から選択し、演武します。トーナメントにおいては1回戦から決勝戦まで全て異なる形を演武しなければなりません。

### ※歴史

空手は、徒手空拳をもって身を護る武術として、全身のあらゆる部位を使い、受け・突き・打ち・投げを駆使して攻撃相手から身を護ることを目的として創始されました。

空手道は、日本発祥の武道で、かつて琉球王国であった沖縄県において、古くから伝わっていた格闘技「手」(ティー)が、中国から伝わった拳法の影響を受けて独自の発展を遂げました。

普及する過程において、日本古来の武道の精神を継承しながら、術から道に発展しました。「専守防衛」が基本になっており、「空手に先手なし」という空手道固有の考え方、行動の仕方がこれを示しています。

1900年頃から、沖縄各地で普及発達し、中学校や師範学校にも体育の授業に採用されました。